

【第80回生涯教育講座】

低侵襲化の進む冠動脈疾患治療； より適切な治療法の選択のために

—冠動脈バイパス術と経皮的冠動脈形成術の成績比較—

お だ てい じ
織 田 禎 二

キーワード：冠動脈バイパス術 (CABG)，経皮的冠動脈形成術 (PCI)，
ステント，薬剤溶出性ステント (DES)，生命予後の改善

要 旨

冠動脈疾患に対する治療において、カテーテル治療、冠動脈バイパス術とも急速な成績の向上を実現している。カテーテル治療では、薬剤を放出するステント (DES) の登場により再狭窄率が大幅に低下している。冠動脈バイパス術では、人工心肺を用いないオフポンプ手術が急速に普及し、今や死亡率は1%前後まで低下している。両方の治療法の長期成績を厳密に比較した研究は少ないが、カテーテル治療の方が圧倒的に多く行なわれている現実がある。島根県における両治療法の遠隔成績比較 (特に生命予後の改善など) は島根県民の健康問題にとって極めて重要である。

はじめに

心臓病は日本における3大死因の一つであり、その中で冠動脈疾患は人口の高齢化と食生活の変化により増加しつつある。また本疾患における高齢者や透析患者などのハイリスク例の割合が多くなり、そのため治療の低侵襲化が求められている。本邦では以前より冠動脈バイパス術 (CABG) に比してカテーテル治療 (PCI) の占める割合が圧倒的に多く、その点では高齢者症例

やハイリスク例に対応しやすい状況にある。

島根県における2006年の両治療法の実績推計値を表1に示すが、非常にPCI優位の治療実績であることが明らかである。2005年に日本全体で行なわれたPCI数は約21万例であったが、CABG数は、約1.8万例であり¹⁾、PCI:CABG比は11.6であった。そもそも世界的にみて極めてPCI有意の治療が行なわれている日本の中で、島根県では

表1 島根県における冠動脈疾患治療実績
(2006年推計)

PCI/CABG	PCI	CABG	PCI:CABG
施行件数	1397	58	24:1

Teiji ODA

島根大学医学部循環器・呼吸器外科学

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1